

令和元年度 鹿島市立能古見小学校 学校評価計画

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
能古見大好き♥共生きチーム ～新たな時代を切り拓き、共に生き抜く児童の育成～	一人ひとりの子どもに深い愛情をそそぎ、一人ひとりの子どもを大切に作る学校づくり ○学力向上に向け、主体的、対話的で深い学びを実現する授業づくりと習熟、補充・発展学習、家庭学習を強化する。

**3 目標・評価**

**① 能りつ学び : 学力向上**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	基本的な学習習慣の確立	○始業時間を守ることや次の時間の学習用具を準備することの徹底 ・「時計を見て行動している」「次の時間の準備をしている」と答えた児童を90%以上とする。 ・「ノーテレビ・ノーゲームができた」と答えた児童を90%以上とする。 ○主体的・対話的な学びの実現 ・「授業中、教師や友だちの発問・発言に対して、自分なりの考えや思いを返そうとしている」と答えた児童を70%以上とする。	・「時計を見て行動すること」「次の授業の準備をすること」を全校で徹底し、教師が一体となって取り組む。 ・ノーテレビ・ノーゲームの週に、「生活がんばり」週間を計画し振り返らせる。学習習慣の確立ができていない場合は、家庭と連携を図る。 ・授業中だけでなく、様々な場面で、聞かれたことなどに反応し、自分の考えや思いを返そうとしている児童をほめ、学習規律として学校全体で取り組む。
		学ぶ意欲の向上	○読書チャレンジの推奨と取組 ・学校図書館の本を年間100冊以上借りて読む児童を90%以上にする。 ○コミュニケーション能力の向上 ・1時間の授業の中で、ペア対話などの機会を設ける。 ・「自分の考えを発表することができる」と答えた児童を70%以上にする。	・100冊以上読んだ児童を「読書名人」と認め、読書への関心を高める。 ・毎月「読書リーダー」や「おすすめの本達成者」を紹介する。また、教員によるブックステーションを行う。 ・授業や自学のノートについて、他の児童の参考になるものをコピーして掲示する。 ・支持的風土のある学級づくりを行うためにエンカウンターを行ったり、学級づくりの研修を行ったりする。
		ICT活用教育の実施	○ICT活用教育の充実 ・各学年において国語科や算数科を中心に電子黒板やPCを活用した授業を1日2回以上は実施する。	・授業でICT機器をすぐに使える環境を整える。 ・授業実践を積み重ね、日常的にICTを活用する。 ・児童が電子黒板等を使って発表する機会を設定する。
●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・授業の振り返りを実施し、「授業はよく分かり、楽しい」と答える児童を90%以上にする。	・各教科の授業過程に「振り返り」を設定し、自ら考えさせたり、他の児童の振り返りを共有することで児童のメタ認知を高める。	

**② 古さと仲間 : 人力向上・体力向上**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○体験活動の充実	地域・自然の活用	○体験学習の計画の実践 ・全学年、年1回以上体験学習を行う。 ○「ふるさと学習」の充実と発信 (佐賀ものづくり支援事業・面浮立など) ・「自分の住んでいる能古見や能古見小学校が好きだ」と答える児童を95%以上にする。	・体験活動を年間計画の中に位置づけ、学年の内容を系統的に計画し、積極的に地域人材の活用を図り、人材活用の記録・整理を行う。 ・全学年、ふるさとに関係のある学習を仕組む。また、その様子をホームページ等を活用し、地域や保護者に発信する。 ・学習発表会(のごみっ子発表会)や授業参観などで「ふるさと学習」の発表を行う。
		特別活動の充実	○たてわり班活動の充実 ○係活動・委員会活動の充実 ・「係活動(委員会活動)に進んで取り組むことができる」という児童を90%以上にする。	・児童による主体的な活動ができるように、活動のファイルや掲示板を活用する。 ・児童の創意工夫を活かした児童集会を行い、各委員会からのお知らせを周知させる。
教育活動	●健康・体づくり	体育の推進	○体育学習カードの活用 ・体育の授業で、学期1回以上の活用をめざす。 ○自主的な体育活動の推進 ・「週に3回以上外遊びをする」という児童を80%以上にする。 ○体育的行事の充実	・どの学年も体育学習カードを効率よく取り組めるように、体育学習カードのコーナーを作り、学期に1回、連絡会で紹介する。 ・スポーツチャレンジを体育の年間指導計画に入れ、全校的に楽しく運動に取り組めるようにする。 ・なわとび大会やマラソン大会への意欲が向上するような企画を体育委員会で計画する。
		保健・安全・食育の充実	○自発的な健康・安全活動の推進 ○食に関する指導の充実 ・見つめる心プロジェクトと連携して「朝ごはんを食べてきている」という児童を95%以上にする。	・健康に関する内容を「保健室便り」や「歯みがきカレンダー」等で児童に啓発し、意識を高めると共に、家庭での健康教育を推進する。 ・各学年、学校栄養職員と連携しながら、「食に関する指導」を年1回以上行い、児童の食育に関する意識を高める。 ・食育月間や給食週間などを利用しながら、保護者に呼びかけ、食事の大切さを理解してもらう。

**③ 見つめる心 : 心力向上**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	基本的な生活習慣の確立	○「挨拶日本一運動」の推進 ・きちんとあいさつ・返事ができる児童を90%以上にする。 ○無言掃除の徹底 ・無言掃除ができる児童を85%以上にする。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」の推進 ・古さと仲間プロジェクトと連携して早寝・早起きは80%以上に、朝食喫食者は95%以上にする。	・登下校中に地域の方に必ず挨拶をするよう呼びかける。学級だけでなく、集団下校や地区児童会などで指導をしていく。 ・校内や地域で元気な挨拶をしている児童を「あいさつ名人」として全校朝会などで全校に紹介し、進んで挨拶する意識を高める。 ・掃除時間に、校内放送で無言掃除を呼びかける。学級でのふりかえりを習慣化し、児童自身に気付かせていく。 ・生活がんばりカードなどを活用して、毎月、強化週間を設定する。保護者に早起き・早寝・朝ごはんを啓発して、家庭との連携を図る。
		特別支援教育の充実	○「個に応じたきめ細やかな指導」「交流学習の充実」 ・上記のことに重点を置きながら、充実した特別支援教育を行う。	・校内教育支援委員会の中で「気になる児童について」の共通理解を図り、全職員で指導や支援に当たる。支援の仕方等について、校内研修を継続して行う。 ・交流学級の児童との交流活動をできるだけ確保し、みんなで伸びる力を認め合う。 ・必要に応じ、SCや巡回相談を活用する。
		いじめの防止	○道徳教育、教育相談、人権集会の充実 ・いじめアンケート等で、いじめを受けていると訴える児童0%を目指し、いやな思いをしている児童を10%以下にする。	・道徳教育等の充実を図る。 ・いじめの早期発見のため、QIを年2回、心のアンケートを各学期に実施したり必要に応じて保護者アンケート実施したりすることで児童の実態を把握する。 ・また、心のアンケートの結果を受け、早期対応のために個別面談を行う。 ・気になる児童や事案について、全職員で共通理解を図り、チームで対応に当たって問題解決を図る。 ・いじめ防止対策推進法に基づき、体制をつくる。 ・児童同士のトラブルが発生した時、児童に考えさせるなど、トラブル解決への道筋を示す。 ・外部講師を招いての研修会を実施する。

**④ 子ども支援 : 協力向上**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教育環境の整備・充実	学習環境の整備	○ICT機器の有効活用と機器の保守点検の充実 ○安全・安心な施設の整備及び維持管理	・ICT支援員や点検委託業者と連携し、機器の活用や周辺機器の整備を図り、子ども・教師支援を行う。 ・安全点検指摘事項への迅速対応と定期的な校内巡回を行い、未然に事故等を防止するための施設の維持管理に努める。
		予算執行の有効活用	○経費削減と環境教育の関連づけ ○各プロジェクト予算の有効配当	・電気料・水道料の節電・節水を職員と児童にこまめに呼びかける。 ・エアコン使用規定を徹底する。 ・各プロジェクトの計画を実行できるような予算を有効活用する。
		事務共同実施の充実	○「学校集金ガイドブック」による会計支援及び集金方法の検討・未納者対策の検討 ○共同購入による学校備品の充実 ○備品台帳のデジタル化	・学校集金取扱事項を作成し、会計処理を事務室で一元管理する。また、市内全校での課題である未納者等の対策を検討する。 ・支援室内学校と協力して、スケールメリットの活用と購入備品の内容充実を図る。 ・備品台帳のデジタル化に伴い、現有備品の有効活用及び適切な管理を行う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務改善への意識の変革	○残業時間の削減 ○業務改善の推進	・毎週水曜日を定時退勤推進日に設定し、会議などが、勤務時間内に終了するように時間設定を区切って計画する。 ・定時退勤推進日は遅くとも午後6時までに退勤できるように、声をかけて退勤を促す。 ・教務主任と連携し、会議の精選・設定変更について、実践していく。 ・業務改革についての全職員による話し合いを学期に1回程度設定し、業務の見直しを推進する。	

**本年度の重点目標に含まれない共通評価項目**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目